

# ジャンボタニシの駆除に御協力を!

～次期作に向け収穫後にできる対策～

ジャンボタニシはまだまだ水路や水田ほ場内に見られます。  
 次年産も水稻への被害が懸念されます。  
 秋～冬は活動が弱まる時期なので、次期作に向け対策を  
 実施しましょう。



## 水田ほ場内

### ●冬季耕起で、個体数を減らしましょう(12～1月)

土中で越冬するため、冬の冷え込みとなる日に、  
 田んぼを耕起して、寒風にさらしましょう。

#### 一言アドバイス

- ・ゆっくり耕起することで、貝を物理的に破碎することも期待できます。
- ・小さいジャンボタニシは越冬できないと言われています。



稲刈り後のほ場にも多くの貝を確認

### ●石灰窒素の散布は慎重に行いましょう(11月)

殺貝効果が期待できますが、魚毒性が高いため、使用にあたっては注意が必要です。

#### 一言アドバイス

- ・収穫後に、水温が15℃以上あり、湛水ができるほ場において効果が期待できます。
- ・窒素を多く含むため、次期作の施肥量に注意が必要です。
- ・魚毒性が高いことを認識して、用法・用量を守り使用しましょう。

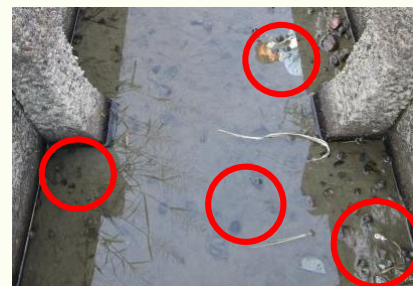
## 水路

### ●落水後の集中駆除を行いましょう

落水後の水路は作業がしやすいです。  
 冬季における水路の泥上げ時などで積極的に駆除を行いましょう。



冬季における  
 水路での  
 駆除活動



水が来ない排水路にも多くの貝を確認

#### 一言アドバイス

水や泥が溜まる場所には、貝が集まりやすいので  
 集中的・効率的な駆除ができます。

注意

貝や卵には素手で触らずに  
 手袋をしましょう

岐阜県 農政部 農産園芸課・農村振興課  
 (監修:岐阜大学応用生物科学部)

作成:令和2年11月